はじめに

これまで、おぢばで行われる「つとめ」について述べてきましたが、今回は、普段、皆さんの教会で勤めるおつとめ（月次祭）についてお話ししましょう。

01. 一般教会におけるおつとめ

① 場所について

「かぐらづとめ」は、元なるぢばに据え置かれた「かんろだい」を囲んで勤められますが、一般教会においては、おぢばからお下げいただいた「お目標様」をお社にお祀りして、おぢばに向かって勤めます。

② 時について

おぢばでは、立教の日である 10 月 26 日と、教祖が現身をお隠しになった日である 1 月 26 日に大祭が、その他の月の 26 日には月次祭が勤められます。一方、一般教会では、おぢばからお許しを頂いた日に大祭 (10 月･1 月) と月次祭が勤められます。

③ 道具について

「かぐらづとめ」では、主にお面と鳴物などがあります。この世元初まりのお働きを今にあらわす道具としてのお面は、元なるぢばのみで使用されますが、鳴物は一般教会でも用います。

④ 人について

「かぐらづとめ」では、みかぐらうたの第一節から第三節までを、この世元初まりの「十全の守護」をあらわす 10 人で勤めますが、一般教会では、6 人で「座りづとめ」を勤めます。この「座りづとめ」は、かぐらづとめの理にならい、各教会でも勤められるのです。したがって、かぐらづとめに通じる心を運ぶことが大切です。

なお、それに続く第四節、第五節の「てをどり」の形は、おぢばでつとめられる「つとめ」と同じです。

02. おつとめの心構え

① 神ひとすじの心

「みかぐらうた」に

「なんでもこれからひとすじに　かみにもたれてゆきまする」（三下り目 七ツ）

とあります。教祖は、慶応 2 年に第一節を教えられる以前は「なむてんりわうのみこと」と、神名をひたすら唱えることを教えられました。これが信仰の原点なのです。人間思案や疑い心を捨て、ひとすじに親神様の思召に近づいていくことが大切です。

② おたすけの心

「おふでさき」に

「このつとめなんの事やとをもている　よろづたすけのもよふばかりを」（二号 9）

とあります。「よろづたすけ」とは、人間の身上や事情だけでなく、農作物や自然環境、また社会の平和など、あらゆるたすけのことをいいます。

人間同士は「一れつきょうだい」と教えられます。私たちがお互いに真実の兄弟姉妹であることに目覚めたならば、人々のたすかりを願わずにはおれなくなります。そのような心で、自分の与えられたおつとめの役割を勤めさせていただきましょう。

③ 一手一つの心

「おふでさき」に

「はや／＼と心そろをてしいかりと　つとめするならせかいをさまる」（十四号 92）

とあります。おつとめの役割はそれぞれ異なりますが、一手一つに心を揃えておつとめをすることが大切です。その一手一つの陽気に勇んだおつとめにこそ、ご守護をいただけるのです。

「せかいをさまる」とは、「世界が治まる」ということであり、争いごとのない平和な世界をも意味しています。

また、おつとめについて教祖は、「このつとめで命の切換するのや。大切なつとめやで」と仰せになりました。

無い命でもたすけていただけるという意味です。お手振りや鳴物の人の心を揃えて、一層陽気に、一手一つに勤めさせていただきたいと思います。

Happistでも
読むことができます！

03. かぐらづとめの理に学ぶ

人間創造時の純粋な心に立ち返る

親神様は、人間が互いにたすけ合う「陽気ぐらし」の姿を見て共に楽しみたいとの思いから、人間を創造されました。しかし、私たちは知らぬ間に心にほこりを積もらせてしまい、その陽気ぐらしができない状態になっています。そこで、この「かぐらづとめ」によって、人間創造時の珍しい働きを今にあらわし、私たちの心を澄み切らせて、親神様のご守護をいただけるようにしてくださるのです。

互いに立て合い、たすけ合い、一手一つとなる

「かぐらづとめ」は、10 人のつとめ人衆が、かんろだいを囲み、それぞれ親神様のご守護の働きを手振りにあらわして勤めます。違う働きを持つものが、協力し合って心を一つにする、人間創造の姿をそこに見ることができます。

これは、私たちの普段の生活にも当てはまります。学校や社会には、誰一人として同じ個性を持つ人はいません。それぞれに違う個性や自分の長所を生かし、お互いに尊重し合い、たすけ合うことが大切です。

そのように皆が、一手一つとなるところに、陽気ぐらしの世界が立ち現れてくるのです。

今回の語り合いテーマ

グループを作って、次のような話をしてみましょう。

心の中で自分自身に問いかけてみるのも良いかもしれません。

❶ どこの教会（布教所、講でもいいです）に所属していますか？
どんな教会なのか、紹介し合いましょう。

❷ おつとめに関して、心に残る思い出はありますか？

❸ 教会でも、家庭でも、どうすれば陽気ぐらしができると思いますか？

Happistでも
読むことができます！